

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30 年 11 月 21 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490201047		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家大原		
所在地	広島県広島市安佐南区伴東7丁目59-11 (電話)		
自己評価作成日	10月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島市安芸区中野東4丁目11番13号
訪問調査日	平成30年11月21日(水)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

職員、利用者ともに笑顔で過ごせるよう配慮しています。
施設での食事は毎食手作りにて提供し、入居者様と一緒に準備・調理しています。
月間の行事では、入居者様の”食べたいもの”を提供しています。また、お一人で出来ることは出来る限り行って頂くように支援しております。夏祭り・運動会・クリスマス会等のイベント時には、ご家族にも積極的に参加して頂き、たのしい・うれしい時間の共有が出来るように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームたのしい家大原は、アストラムライン大原駅より徒歩1分に位置し、近くにスーパーマーケットもあり、利便性がある。「うれしい おいしい たのしい 暮らし」をコンセプトに利用者の個性を大切に、家庭的な環境の中で自立した生活がおくれるようにサポートしている。今ではグループホームにおいて少なくなった、3食手作りの料理を提供しており、利用者好みの献立を工夫され、喜ばれている。健康面にも配慮され、医療や看護との連携により、健康管理を行っている。人工透析・在宅酸素・ペースメーカー等の受け入れ体制もある。開設1年目でもあり、管理者を中心にスタッフ一同、利用者にとって、より良いケアを目指しておられるホームです。

グループホームたのしい家大原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	経営理念は朝礼時に復唱している。事業所理念は作成段階で各ユニット事に年間目標を話し合い作成していく予定。	経営理念は、日々の方針を定め「人を大事にし、人を育てる」「常に考え、変わり続ける」「現場第一主義」等、毎朝の申し送り時に、皆で唱和し、実践に繋がっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	近隣の学校、保育所との交流を図れる様取り組みをしている。交流を図り今後は、学校行事等の参加もさせて頂きたいと考えている。	運営推進会議にて、地域の行事を紹介してもらい、秋祭りに出掛け神楽鑑賞したり、公民館まつりに参加している。	近隣には、保育園や小・中学校があり今後、挨拶に行かれ、お互い交流しながら、いい関係を築かれることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方との交流を今後計画、実施していきたいと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回の委員会にご家族様の参加があった際は、意見を頂いている。また、面会時や電話連絡でもご意見を伺い、その都度対応している。現在は、施設の看板設置について意見があり、設置に向けて動いている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、会議には、地域包括支援センター職員、連携病院事務長、連携薬局薬剤師、民生委員、消防署職員、他施設職員、家族、利用者、管理者等の参加があり、現状報告・行事予定・事故報告・意見交換等を行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	不明な点はその都度、電話相談等している。平成29年度の实地指導を受け、運営についての指導・助言を受けている。	開設1年目ということもあり、電話での問い合わせや書類の提出や疑問なところの指導・助言等、伺いながら協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	教育計画に基づいて社内研修を実施している。身体拘束をしてはならないことやどういったことが拘束にあたるのか等は職員と理解を深めている。身体拘束その他の行動制限防止に関わる指針を開示している。	「身体拘束、その他の行動制限防止に係る指針」を示し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロック等は、直接注意・指導を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的にも高齢者虐待について社内研修を実施している。		

グループホームたのしい家大原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	年間教育研修に、基づいて定期的に社内研修を実施している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、重要事項説明書に基づき説明、同意を得て契約している。法改定等があった際は、その都度説明・同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に一回「顧客満足度調査アンケート」を実施している。改善点があれば改善するようにしている。	運営推進会議や面会時等、家族から意見や要望を聞く機会を多く持つように心がけている。当ホームが、1年目という事で、「訪問時、ホームの場所への案内に看板を設置してほしい」要望があり、早速、それに向け準備している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年に一回「従業員満足度調査アンケート」を実施し、現場の声を聴き、今後に生かすように取り組んでいる。また、事業所内では、管理者との面談も定期的に行い、現場の声を運営に取り組みむようにしている。	月1回、職員会議を実施し、運営・業務に関する意見を聞いたり、改善すべき課題等を検討したり、現場の声を聞く取り組みを行っている。(勤務体制や休憩時間等)	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人独自の「誰伸び人事制度」で絶対評価をし給与へ反映している。また、個々のスキルアップを評価している。事業所単位にはなるが、業績に応じて、年に1回業績一時金の支給も行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	年間教育研修に、管理者、計画作成、介護職員、看護職員等に対する研修があり、年間を通して知識・技術の向上を図っている。また、他の事業所での取り組みや事例を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	年に数回、交流会を開催している。法人内の他の事業所との交流を図る為にも、グループホーム会議、エリア会議、研修等で意見交換を行う場を設けている。		

グループホームたのしい家大原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前にご本人の元へ訪問し面談を実施する。現状のアセスメントを計画作成を中心に実施する。その際に、ご本人・ご家族の意向も聴取する。(訪問時は、管理者・計画作成担当者・看護師等の複数で面談を実施する)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面談時には、出来る限りご家族にも同席して頂き、現状の不安や困っている点等の聴取を実施する。入居後の生活での要望等も面談時に聴取するが、入居当日や入居後にも何かあれば話し合いが出来るように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	主治医、看護師等の相談により、重度認知症デイケアを利用されている方もおられる。入居後の状態に応じて、有料老人ホームや特別養護老人ホームへ移られる際の支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	出来ることは行って頂き、役割を持って頂けるように配慮している。調理等の家事全般を職員と共に実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時には、居室でゆっくりとした時間を共有して頂けるように、お茶の提供等を行っている。また、行事等のイベント開催の案内を送付し、参加して頂けるように配慮している。楽しい・うれしい時間の共有が出来るように配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族以外の面会も受け付けている。内科の往診は2週間に一回あるが、その他の科については、入居前より通院されておられた病院へ通っておられる方もおられる。	友人、知人の訪問もあり、又、利用者が携帯電話を持参されていて、利用している方も居られる。家族と一緒に自宅に帰られたり、墓参り等されて、馴染みの人や場所との関係が、途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	レクリエーションや、近隣の散歩等を通して、入居者様同士の交流も図れるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院中も、ご家族へ連絡をさせて頂きその後のご様子についてお聞きしている。また、急変等で亡くなられた際はお通夜・ご葬儀にも参列させて頂いている。		

グループホームたのしい家大原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の面談時等で、趣味や生活歴を聴取し、これまでの生活スタイルが出来るだけ保てるように配慮している。	利用者一人ひとりの居室担当が、日頃の様子を月1回、手紙で送っており、本人の希望や意向の把握に努めている。お茶が好き、読書、日記をつける、畑作り等、その人らしく暮らされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に面談しアセスメントしているが、入居後もご家族からの話を聞いたりし、情報を増やしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人一人の状態に合わせて日々の過ごし方ご本人・ご家族の意向も踏まえて考えている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成が主となり、計画を作成している。現場職員の意見や、ご本人・ご家族の意見も参考にしている。また、毎月各居室担当より、お手紙を作成し、日々の状況・状態を報告している。	介護計画の見直しは、通常6ヶ月としている。変化のあった時には、その都度見直している。プラン作成は、本人・家族の希望を聞き、ケアチェック表を参考にしながら計画作成担当者、スタッフ等が意見交換しながら、本人本位のプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様個人の状態に応じての観察ポイントや記録へ残さないといけない箇所等は、毎月のカンファレンスにて話し合いを行っている。また、日々の変化があれば各勤務の職員へ申し送りをするように徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族の言葉に耳を傾けている。臨機応変に対応できるように職員同士で話し合いを行い、日々生かしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ご本人の希望される内容になるべく対応できるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	2週間に1回の訪問診療を実施。その他の受診については、入居前に通院していた病院へご家族と行って頂いている。(ご家族の対応が困難な場合は、ご本人の状態も考慮しながら、施設職員・看護師が対応することもある)	連携医療機関の医師による往診は、2週間に1回、歯科は、希望者のみ、他の眼科・精神科・皮膚科は、受診出来るよう柔軟に対応しており、適切な医療支援、健康管理を行っている。	

グループホームたのしい家大原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	管理者が看護職を兼務している。24時間のオンコール体制を確保している。介護職員との日々の連携を図り、主治医・ご家族との情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご家族の了承の元、ご本人を訪問している。病状の確認は、毎週必ず行い早期退院を心がけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重要事項説明書に記載してある、重度化指針を用いて説明している。今期より、入居時での終末期の対応についてご家族へ記入・捺印して頂くようになっている。また、実際に終末期(ターミナル期)に移行する段階で、再度ご家族の思いを聴取出来る様に話し合いをする場を設けることにしている。施設で出来る限りのことは、させて頂く。	契約時に「重度化対応、終末期ケア対応に係る指針」を説明している。「グループホームでの生活が継続出来るようにグループホームで終末期を迎えられるように最大限の対応をします。」とあり、入居者及び家族に対する支援を最後まで継続するとしているが、まだ看取りはない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	災害時の避難訓練を年2回開催している。また、急変時の対応として看護師が主体となり研修の開催をしている。毎月、医療勉強会を実施。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回以上の消防訓練を実施。内1回は消防隊の立会いにて実施。昼・夜想定での訓練を定期的実施している。	年2回避難訓練を実施している。内1回は、消防署指導の下、夜間想定も行っている。避難経路確認・消火器での初期消火訓練等、実施した。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	毎年、認知症ケアについての研修・勉強会を開催。また、他事業所の事例も参考にしている。	プライバシー保護のマニュアルを作成しており、年1回研修を行っている。特に、言葉遣いに対しては、日頃から、心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	毎月15日のお楽しみ食事会では、入居者様の意見を伺い、皆さんの食べたいものを提供している。叶えられる内容は出来る限り、実現できるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	無理強いせず、ご本人のその日の気分や体調に合わせた対応・ケアを提供している。		

グループホームたのしい家大原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出時にはお化粧をされたり、日々の衣類の選択等ご本人の意向・意思を伺いながら支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	それぞれの好み(嗜好)や食事形態等を参考にしながら、日々の食事を提供している。3食の提供は手作りで、おやつも手作りの日もある。入居様と一緒に作り、食べる楽しみを分かちあっている。	食事が楽しみなものになるように、利用者の好みを聞きながら、3食手作りで提供している。月に肉の日とかパンの日を取り入れたり、時には、出前で、お好み焼きや牛丼等に行ったり、誕生日には、喫茶店に行く事もある。おやつバイキングも好評である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食材は、業者より配送されて、献立は管理栄養士により作成されている。食事摂取量・水分補給量は日々記録を実施。必要な量が摂取出来る様に支援している。個々の嚥下状態・咀嚼状態を評価し、食事形態の変更も看護師を主とし実施。毎週金曜に訪問歯科があり、指導して頂くこともあり。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを実施。なるべくご自分でできるように支援している。(声かけ・見守り・介助)毎週金曜の歯科往診を受診されている方も有られる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来る限りトイレでの排泄が出来るよう支援している。また、排泄状況の記載を個人ごとに行い、排泄パターンに応じて誘導等も実施している。	排泄チェックシートを作成、し排泄パターンを把握して、誘導や見守りを行い、トイレでの排泄や自立に向けての支援を行っている。ミニカンファをして、その方に応じて、紙パンツから布パンツに変えた人も居られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘予防の為、1日の水分量には気を付けている。その他、ヨーグルト・ヤクルト等の提供や、食物繊維を補給するために各食事におからを使用する等実施。看護師の日々の観察事項を主治医へ報告し内服管理をお行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	各曜日にて、入浴して頂いている。その他、ご本人の希望する日・時間に入浴できるように支援している。週2回は入浴できるように記録している。	入浴は、週2～3回としているが、本人の希望に添えるよう努め、ゆっくり入浴してもらえよう支援している。嫌がる人に対しては、時間を変えたり、人を変えたり、上手に誘導している。(シャワー浴・足浴・清拭もやっている。)	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活リズムを確保する為にも、日中は出来るだけ活動して頂いているが、個々の体調に応じて臥床して頂く時間も設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	連携をとっている薬局によって適切に管理されている。また、直接看護師・介護職員への指導もして頂いている。		

グループホームたのしい家大原

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	各入居者様で出来る内容の役割りを持って頂いたり、月間行事等で楽しみを持って頂くように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日々、近隣の散歩や買い物等も一緒に行っている。また、月間行事にてドライブや外食等も計画・実施している。	気候の良い時には、外気浴、近隣への散歩、買い物と一緒に出かけたりしている。又、初詣・花見・紅葉狩り・地域の祭りにも出掛けている。	利用者、個々の希望に応じた外出支援が出来るよう期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	入居者様のお小遣いは、管理者によって金庫にて管理している。ご本人の希望にて買い物へ出かける際は管理者によって開錠している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話をお持ちの方もおられ、管理できる方は自室にて管理されている。また、電話連絡希望時には、施設の電話を使用しご家族へ連絡を取って頂いている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室はご本人の居心地が良いように、自宅にて使用されていたものを持参して頂いている。また、ご本人と共に居室環境を整え、日々過ごしやすいうに配慮している。	明るいリビングルームにテーブル、椅子が配置され、ゆったりと過ごされている。部屋の空調管理をされ、清潔感がある。又、季節を感じさせる壁画（鯉のぼり・花等）ぬり絵、貼り絵を飾り、家庭的な雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	1階、2階の入居様での交流が図れるように、自由に行き来して頂いている。（エレベーターの使用となるので、必ず職員が付き添っている）		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にて使用されるものは使い慣れたものを持参して頂いている。ご家族の写真等も飾っておられる。	居心地よく過ごせるようカーペットを敷かれたり、テレビ・引き出しタンス・カレンダー・家族写真等、落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご自分で出来ることは、出来るだけ、ご自分にて行って頂いている。入浴も見守りにて出来る方もおられる。		

グループホームたのしい家大原

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホームたのしい家大原

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームたのしい家大原

作成日 平成 30 年 11 月 21 日

達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との交流を図る 近隣との交流を深める	近隣の保育園・学校との連携を図る。施設での行事等に参して頂き、入居者様との交流を図る。	運営推進会議の案内の送付。 学校行事参加の許可を得る。 定期的に挨拶に伺う。	3~6か月
2	49	日常的な外出支援 近隣の散歩・外出行事等の計画・実施	施設周辺の散歩に出かける 個々の希望に応じた外出の支援が出来る。	天候の良い時には、施設周辺の散歩へ出かける。各居室担や月間の行事担当にて計画・実施する。	3~6か月
3					
4					
5					
6					
7					

評価項目の番号を記入すること。
場合は、行を追加すること。